

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

- 理事長・委員長会議報告1
- 2006年フランクフルト・ブックフェアに参加して2
- 第58回フランクフルト書籍見本市を訪ねて3

理事長・委員長会議報告

理事会報告 2006年10月27日（金）

1. 委員会報告 別掲

セミナーに関して

- ・もっと業界に関係あるテーマでおこなうべきではないか。
- ・業界内部の人間の話を聞きたい。
- ・会員の出やすいテーマと時間設定が必要。

2. 理事長から

韓国輸入協会との懇親会はHPに記事があるように和気藹々で行われた。次回は機会を見て東京で行いたい。

3. その他

- ・新年賀詞交歓会に関連団体を招待する件は理事長に一任することとした。
- ・理事選挙における選出基準の改定（理事長提案）は行わないこととした。
- ・「女性の会」は引き続き11月、来年1月にも経営者を中心に行う。

委員長会議 2006年10月25日（水）

委員会報告

総務委員会

上半期の収支がほぼ予算通りの推移と確認した。

広報委員会

13日のセミナーには30名の出席があり、活発な質疑、応答もあった。

- ・セミナーの内容、時間設定等のアンケートも必要。

- ・会員各社の社長のスピーチを聴いてみたい。

- ・次回は1月22日を予定。

文化厚生委員会

次回の麻雀大会には16名の申込があった。

事業委員会

11月7、8日のセールは12社で行う。

ホームページ委員会

HP用のサーバを導入。現在設定中。近日稼働予定。

新年賀詞交換会のお知らせ

来年の新年賀詞交歓会は1月11日（木）にプレスクラブで行います。

詳細は後日ご案内いたします。

文化厚生委員会

お知らせ

事務手続きの簡素化のため、会報購読料の請求方法を変更させていただきます。

来年1月号（Vol. 41）から1月～12月のみの年間契約とさせていただきます。

12月に次年度分の請求をさせていただきますので

しくお願いいたします。新規、追加分に関しましては初年度に月割りの請求をさせていただきます。

ご不明の点は事務局までお問い合わせください。

事務局

2006年フランクフルト・ブックフェアに参加して

今年は会期前日から生憎の雨模様が続きましたが、中日には澄み渡った秋晴れを見ることができました。ご参加になった皆様は、コート無しでスーツケースも軽く旅立たれたことではないでしょうか。例年に比べ早い日程で、10月4日（水）から8日（日）までの5日間、「第58回フランクフルトブックフェア」が開催されました。

事務局のプレスに確認した数字によりますと、出展者数は今年も連続して史上最多記録を更新した7,272団体、参加国数は113カ国、全体の入場者数は286,621人（うち平日入場者は153,360人、土日入場者は133,261人）。平日のビジネス目的の入場者数が停滞ぎみとはいえ、全体的には対前微増ということです。国別出展者数を見ますと英国、米国、カナダが数十単位で減少しているのに対し、地元ドイツやスペイン、あるいはスタンド面積を倍増した中国など、英語圏以外の出展が同単位で増加しています。日本からは昨年とほぼ変わらず45社、うち当協会からは、医学書院、南江堂、日本出版貿易、丸善が出展しました。

今年の招待国は1986年に継いで2回目のインド、今回のテーマ「今日のインド」は、その間経済と出版における急速な発展と変化を遂げた20年後の別のインドを表しています。英米に次いで世界第3の英語書籍市場である同国発展の背景には、都市部の教育を受けた新しい英語世代が原動力の一つとなっています。既に世紀を越えて現地に定着し、複数拠点を持つオックスフォード大学出版局やマクミラン、ペンギンブックス等の大手出版社も特にこの5年間は急成長をみせ、2002年にはハーパーコリンズ、昨年はランダムハウスも進出し、また今年のカンファレンスでは、アシェットがインド進出への強い意向を表明しました。インドで年間8万冊出版される新刊のうち約40%が英語タイトル、そのうち大多数を教育関連書が占めているそうです。

フランクフルト・ブックフェアは今年から、デジタル化とグローバル化の時代においてますます重要性の高まる「教育」に焦点を当て、「未来のための教育」というキ

ーフォーカスを掲げました。毎年設けられるトレンドカンファレンス、今年の主題は「上り坂のインド」でした。発展に向け猛進する産業国、将来の巨大なメディア市場として、インドの経済成長とその中で教育が担った役割について紹介がなされました。ブックフェア代表のユルゲン・ボースは「教育セクターの発展が未来を決める」「教育は財に関わる論点でもある。教育に投資することによってのみ未来に投資ができる」と表明しています。またこの一環としてフランクフルト発リテラシー促進の為にグローバルキャンペーンとして識字キャンペーンLitCamを立ち上げました。プロジェクトのパートナーにはユネスコ生涯学習研究所が参加し、グーグルはリテラシーに関する新サイトを立ち上げました。ユネスコは、識字は人権であるとする一方、読み書きのできない人が現在世界に7億人以上いると見積もっています。その他の焦点としては、第1回教職者フランクフルト会議が開かれ、1,300出展者から成る教育関連製品部門が会場内に設けられました。

一般公開日の土曜日には昨年を5%近く上回る74,100人の入場者で賑わいを見せました。Mangaブームは堅調で、最終日にはアニメ・ゴーズ・オペラと題してベルリン在住の日本人バリトン歌手田辺とおる氏がアニメソングをクラシックにアレンジしてドイツ語と日本語で歌うイベントがあり、ビッグ・イン・ジ



ジャパン・コスプレという服飾コンテストでは、優勝したドイツ人女性に1週間の東京旅行が贈られました。

また昨年から始まった会場内でのフランクフルト古書展は、5日間通して物販のできる特殊なセクションですが、ブックフェア主催側がこの古書展を重視しはじめたことで、今年も大々的に開催されることになりました。大幅に出展業者も増えて100社となり、ドイツ国内最大のシュトゥットガルト古書展に次ぐ規模となり、それは単館で開催される古書展としては最大規模ということになりました。

私も昨年から参加しての2回目、今年英国へ赴任し

て初めての参加となりました。まだ未熟ではありますが、来年以降の古書展の継続と発展とともに、成長してゆきたいと思います。

来年は10月10日～14日開催、賓客はカタルーニャ文化圏です。この数年体育の日前後が雨となるケースが続いていますが、今年は強風の影響で成田空港が大混乱した為、お帰りの便が欠航となって祝日に期待していたのに結局お休みなく職場に戻られた方も多かったと聞いております。これにめげずに来年もフランクフルトでお会いしましょう。

(丸善株式会社 ロンドン出張所 瀧野智弘)

第58回フランクフルト書籍見本市(Buchmesse)を訪れて

第58回フランクフルト書籍見本市が“未来、教育”という表題で、インドをテーマ国として10月4日に開かれ、私はドイツ書輸入販売業者として訪れて参りました。今年は7,272の出展社があり、全訪問者数は286,621人で昨年より0.6%多かったそうです。オープニングセレモニーは前日の夜マリンバの静かな演奏で始まり、主催者、フランクフルト市長、インドの代表的な作家等5、6人の挨拶で終わりました。外国からの人々が多く参加している感が有りました。

毎年の事ながら感じるのは、東京国際書籍見本市とは違って、フランクフルト市あげての大きなイベントと捉え、本に対する興味の大きさと、重要な産業として考えているのが感じられます。

5日間の通し入場券にはフランクフルト市内の電車乗り放題の切符もついています。町中では多くの催しがあり、オペラもコンサートもメッセの為の特別プログラムとなります。日曜日は普段店は休みなのに、特別、メッセのお客の為に、日曜日に午後少しの間開きます。市内からだけでなく他地方からも大勢の一般の人たちが見にきます。

会場では政財界の要人もあちこちで見かけますし、入場券は確か大人9ユーロだったと思いますが、ごく普通の人達が家族連れ等でお祭りに行くように繰り出します。金曜日からは小学生や中学生の団体も来始め大変な混み具合で動き難くなります。

今回も例年の如く、取引先15、6社とのミーティングがありました。今はメールなど通信分野が発達しているの、わざわざ行って話し合わなければならない

事もなく、フランクフルトまで行く必要があるかと考えながら行くのですが、ドイツの出版社にその疑問をぶつくと“直に会うことが大事”という声があちこちからかえってきます。

公式見本市サイトにも“出版社、本屋、著者、読者が一同にふれあえるプラットホームである”と書かれています。“本を展示すると同時に即商談の場がメッセ”として、商談の場としてのメッセに重きがおかれているので、責任者が多くブースにつめています。

今回も各社とのミーティングの際、特別好調な2、3社を除いて、売上は前年比ほぼ横ばいというデータの弊社ですが、大変歓迎してくれ、今後どうすれば良いのかと具体的な提案をしてくれます。

ドイツ書の売上減少傾向の強い中、訪問した事によって、今回は特にある2社が話の接ぎ穂の中から、今後の売上につながるような好提案も受けられましたし、どの出版社も例え取引の浅い出版社だとしても、こちらが出向いたという事でかなりの好条件で本を出荷してくれます。

出版社も高い出費をして展示ブースを出しているの、いかに多くの取引先とのミーティングが有ったかは大事な要素なのだと思いますし、その上、成果も必要なのでしょう。

これでフランクフルトに飛んだ甲斐があったと胸をなでおろしつつも、又そこにドイツからの東京国際書籍見本市への参加が奮わない原因もみえた気がしながら、帰国の途につきました。

(株)ゲーテ書房 久住多賀子

好評発売中!

[ON JAPAN]

IBCパブリッシングの オールカラー 英文写真集

KYOTO

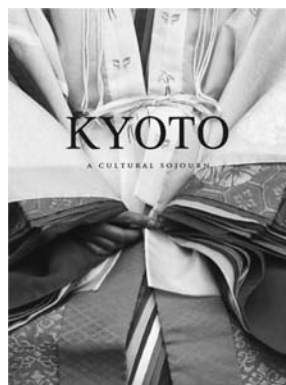
テキスト 英文

A CULTURAL SOJOURN

京都の伝統美を収録した
珠玉のオールカラー英文写真集
海外へのお土産やギフトにおすすめ!

ゴラズ・ヴィルハー
シャーロット・アンダーソン [写真・共著]

古都・京都の魅力を情緒豊かにとらえた写真130点以上を収録。
1200年にわたる伝統の息づかいが四季折々の風情とともに
鮮やかに各ページを彩る。



A4 ソフトカバー 116頁
オールカラー 写真約130点
定価 本体 2,800円+税
ISBN4-89684-258-8

JAPAN

テキスト 英文

a pictorial portrait

海外へのお土産やギフトにおすすめ!
オールカラー英文写真集

日本の美150景

Kenzo Takada [序文]
(ファッションデザイナー)

IBC Publishing [編]

日本全国から四季折々の絶景150点を収録。
日本の文化・歴史をていねいな英文で解説。



B5変型 (220mm×182mm)
ソフトカバー 136頁
オールカラー 写真約150点
定価 本体 2,800円+税
ISBN4-925080-93-8

発売=洋 販 (日本洋書販売株式会社)

〒107-0051 東京都港区元赤坂1-1-8 赤坂コミュニティビル5・6・7階 TEL 03-5786-7420 FAX 03-5786-7411

●お問い合わせ先: [カスタマーサービス] TEL 03-5786-7475 FAX 03-5786-7411

www.yohan.co.jp

